

はじめに

本報告書は、東京大学社会科学研究所の人材ビジネス研究寄付研究部門に設けられた研究プロジェクト「派遣スタッフの働き方と意識に関する研究」の成果を取りまとめたものである。プロジェクトメンバーは、佐藤博樹(東京大学社会科学研究所教授)、佐野嘉秀(東京大学社会科学研究所客員助教授)、堀田聡子(東京大学社会科学研究所助手)、高橋康二(東京大学大学院・麗澤大学外国語学部非常勤講師)、島貫智行(一橋大学大学院)の5名である。プロジェクトの研究課題は、事務・営業系の派遣スタッフを対象としたアンケート調査を実施し、派遣スタッフの仕事やキャリアに関する就業意識を把握するとともに、派遣スタッフの仕事への取り組み意欲を維持向上させるうえで、派遣先や派遣元(管理・営業スタッフなど)が担うべき役割を明らかにすることにある。

本書の構成はつぎのようになる。総論では、第1章と第2章の分析の前提として、派遣スタッフの働き方や就業意識の実態やその特徴を紹介する。第1章では、独立系派遣会社と資本系派遣会社の派遣スタッフの働き方および就業意識を比較し、それぞれの特徴を明らかにするとともに、両者の違いを生じさせるメカニズムを検討する。第2章では、派遣スタッフの働く意欲を高めるために求められる人事管理のありかたを検討することを通じて、派遣スタッフをユーザー企業に配置する派遣会社(派遣元)と派遣スタッフを活用するユーザー企業(派遣先)による人事管理の両者の充実度が、派遣スタッフの働く意欲を左右することを明らかにする。

本研究は、お忙しい中、調査にご回答いただいた派遣スタッフの皆さんと調査にご協力いただいた派遣企業によってはじめて可能となったものである。匿名を条件に調査への協力を依頼したため、個別の企業名などを記すことができないが、快く調査にご協力くださったこれらの方々に、心よりお礼を申し上げます。調査の実施に際しては、社団法人日本人材派遣協会の加藤高敏総務課長にご尽力をいただいた。記して御礼を申し上げたい。

本報告書の資料編の作成は、島貫智行さんによるもので、原稿の編集作業は田口洋さん(東京大学大学院)のご協力によるものである。

本報告書では執筆を担当していないが、佐野嘉秀さんと堀田聡子さんには、調査票作成に際して多くの時間を割いていただくとともに、各章に関して有益なコメントをいただいた。

2006年10月

佐藤博樹（東京大学社会科学研究所・教授）